



壁付 2ハンドル混合栓

取扱施工説明書

施工前・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

このたびは、壁付2ハンドル混合栓をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

施工の前に…

- 温泉水・中水・飲用不可な井戸水には使用しないでください。
- 元止式湯沸器には使用しないでください。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。

使用圧力条件について…

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- 給水・給湯圧力は圧力差があると、温度調整がしにくくなります。やけど防止のため、給水圧力は、給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
- * 電気温水器と組み合わせる場合は、特にご注意ください。

安全上のご注意

施工・使用される前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または、物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

禁止 してはいけない「禁止」を表します。

注意 気をつけていただきたい「注意」を表します。

必ず実行 必ず実行していただく「強制」を表します。

禁止 指定した場所に触れないでください。

施工上のご注意

禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 湯と水を逆に配管しないでください。やけどや器具破損の恐れがあります。 ● 配管内のゴミや砂などは完全に洗い流してください。 ● 給湯温度は85℃以上で使用しないでください。85℃より高温で使用されますと、製品の寿命が短くなるだけでなく、各部品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ● 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
注意	他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯をご使用中に湯温が急上昇することがあります。やけどの恐れがありますので、やけどの恐れがないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。
必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ● 給湯機からの配管は、配管圧力損失を少なくするため最短距離で配管し、必ず保温材を巻いてください。 ● 各部の接続を行う際は、パッキンが付いていることやそれらに破損・変形がないか必ず確認してください。漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ● 水勢調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ず設置してください。 ● 給水・給湯配管および止水栓をキャビネットや流し台の裏側(壁の中)に配管(隠蔽配管)する場合は、必ず点検口を設置し、作業可能なスペースを確保してください。経年変化や劣化による漏水を発見できず、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。

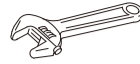
使用上のご注意

禁止	<ul style="list-style-type: none"> ● 給湯温度は最高85℃まででお使いください。誤った操作によるやけどを防止するため、給湯温度は60℃程度をおすすめします。 ● 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 湯側ハンドルのみを開く場合、高温の湯がそのまま出ます。取扱いには十分ご注意ください。 ● 小さいお子様だけのご使用は避けてください。やけど、ケガをする恐れがあります。 ● 他所の水栓を同時使用されると、やけどの恐れがありますのでご注意ください。同時使用により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ● ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、配管からの漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。 ● 湯をご使用の際は、水側ハンドルから開栓してください。その後ゆっくり湯側ハンドルを開栓し、お好みの温度に調節してください。湯側ハンドルを先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ● 湯をご使用後は、必ず水側ハンドルを開栓し、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際に、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ● 可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので修理を依頼してください。
接触禁止	高温の湯をご使用の際は、吐水口(パイプ)に直接肌を触れないでください。吐水口(パイプ)は高温になっているため、やけどをする恐れがあります。

施工に必要な工具

● ミニモンキーレンチ *1

● 六角レンチ(対辺2.5ミリ)



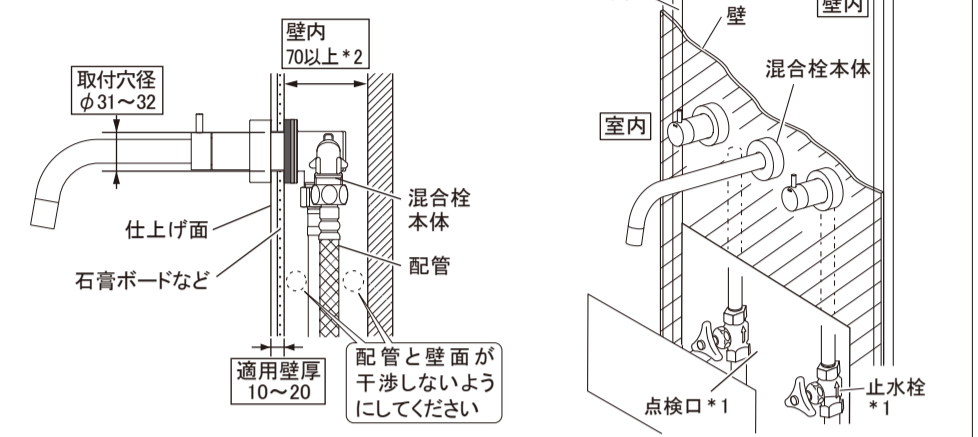
*1 壁内で施工ができるサイズをご用意ください。



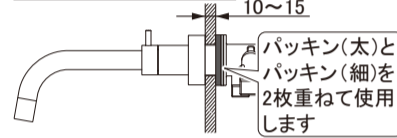
取付けの前に

- * 数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、元栓を閉めて取付作業を行ってください。
- * 取付作業を行う前に下記の事項をご確認ください。

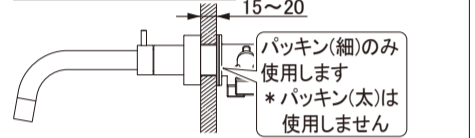
《取付条件》(単位:mm)



取付壁厚10~15の場合



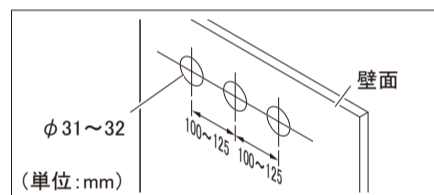
取付壁厚15~20の場合



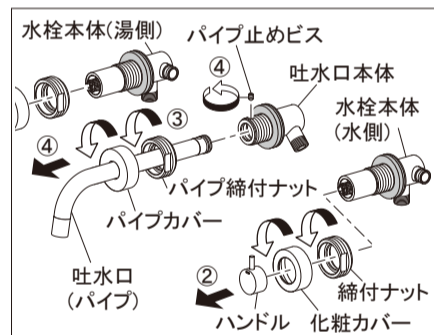
- *1 本品を取付ける際は、配管に止水栓(バルブ)を設置し、点検口を設けてください。
- *2 既設の壁に製品を設置する場合は、壁内120ミリ以上が必要です。

取付方法

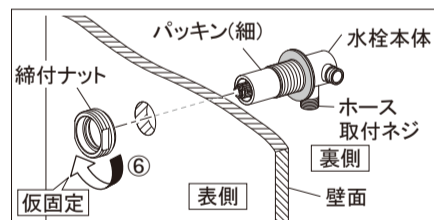
1. 壁面に吐水口本体と水栓本体を取付けます。



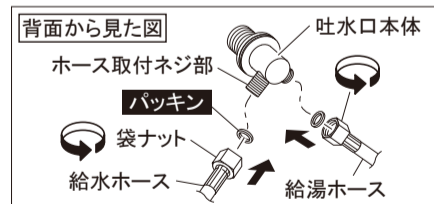
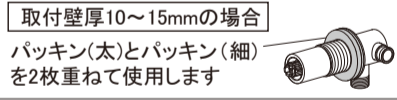
① 壁面に本品を取付けるための穴を開けます。



- ② 水栓本体からハンドル、化粧カバー、締付ナットを外します。
- ③ 吐水口本体からパイプカバー、パイプ締付ナットを外します。
- ④ 吐水口本体のパイプ止めビスを「六角レンチ(対辺2.5)」でゆるめてから取外し、吐水口(パイプ)を抜取ります。

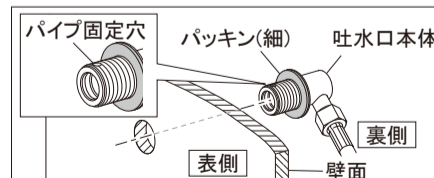


- ⑤ 水栓本体にパッキンが付いているのを確認してから、ホース取付ネジが真下を向くように向きを合わせ、壁面の裏側から水栓本体を取付穴に差込みます。
- * 取付壁厚10~15mmの場合はパッキン(太)とパッキン(細)を2枚重ねて水栓本体に取付けてください。
- ⑥ 壁面の表側から締付ナットを「レンチ(対辺42.5)」などで締付けて仮固定します。

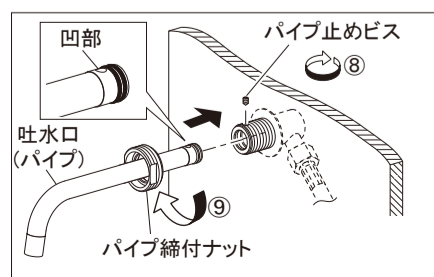
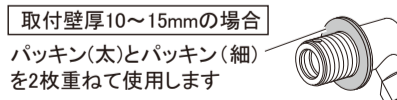


- ⑦ 給水・給湯ホースの袋ナットにパッキンをはめ込み、吐水口本体のホース取付ネジ部に「レンチ」などでしっかりと締付けます。

必ず実行 給水・給湯ホースを取付けの際はパッキンを必ずはめ込んでください。



- ⑧ 吐水口本体にパッキンが付いているのを確認してから、パイプ固定穴が真上を向く状態で、壁面の裏側から吐水口本体を取付穴に差込みます。
- * 取付壁厚10~15mmの場合はパッキン(太)とパッキン(細)を2枚重ねて吐水口本体に取付けてください。



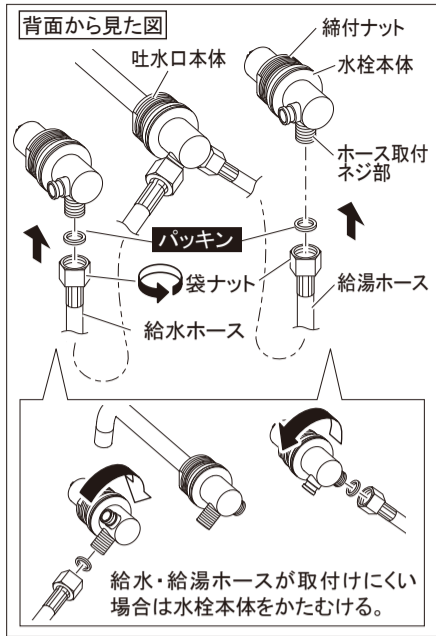
- ⑨ パイプ締めナットを吐水口(パイプ)に通してから、吐水口(パイプ)の凹部を吐水口本体のパイプ固定穴に合わせて吐水口(パイプ)を吐水口本体の奥まで差込み、パイプ止めビスを「六角レンチ(対辺2.5)」で固定します。
- ⑩ 壁面の表側からパイプ締めナットを「レンチ(対辺39)」などでしっかりと締付け固定します。

必ず実行 吐水口(パイプ)を吐水口本体へ差込むときは、Oリングに傷を付けないよう垂直にゆっくり差込んでください。

裏面へ続く➡

取付方法(つづき)

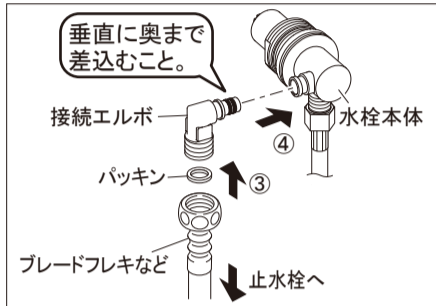
2. ホースを取付け止水栓と接続します。



①給水・給湯ホースの袋ナットにパッキンをはめ込み、水栓本体のホース取付ネジ部に「レンチ」などでしっかりと締付けます。
*給水・給湯ホースが取付けにくい場合は、図のように締付ナットを少しゆるめて水栓本体をかたむけて向きを調整してください。

必ず実行 給水・給湯ホースを取付けの際はパッキンを必ずはめ込んでください。

②壁面の表側から水栓本体の締付ナットをしっかりと締付けて固定します。
*①で水栓本体をかたむけた場合はその向きで固定してください。

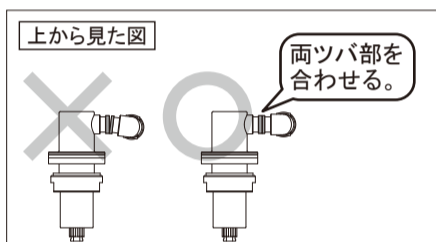


③止水栓と接続したブラードフレキ(現場調達)などを接続エルボに取付けます。

④接続エルボを水栓本体へ垂直に奥までしっかりと差込みます。

必ず実行 接続エルボを水栓本体へ差込むときは、Oリングに傷を付けないよう垂直にゆっくり差込んでください。

禁止 止水栓との接続に、フレキパイプなどは絶対に使用しないでください。漏水し、家財などを濡らす恐れがあります。



⑤接続エルボがジョイント金具に正しく差込まれているか確認をします。

必ず実行 接続エルボを水栓本体へ差込むときは、Oリングに傷を付けないよう垂直にゆっくり差込んでください。

禁止 止水栓との接続に、フレキパイプなどは絶対に使用しないでください。漏水し、家財などを濡らす恐れがあります。



⑥クリップの溝に、両ツバ部が収まるようにクリップをはめ込みます。

注意 クリップで手を切らないようにご注意ください。

⑦キャップをクリップに取付けます。

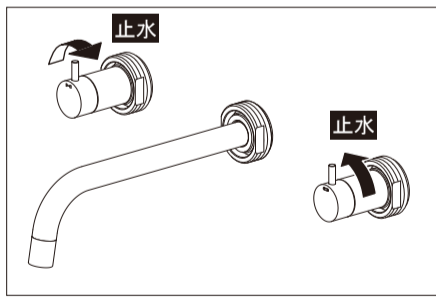
必ず実行 クリップが外れないように、固定後は必ずキャップを取付けた状態にしてください。

⑧接続エルボを引き、確実に接続されているか確認をします。

必ず実行 接続エルボは確実に取付けないと漏水する恐れがありますのでご注意ください。



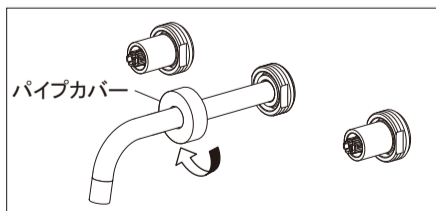
クリップが正しい位置に取付けられていないと、通水時に接続エルボが抜け、漏水を起こす恐れがあります。図を参考に、確実に取付けられているか確認をしてください。



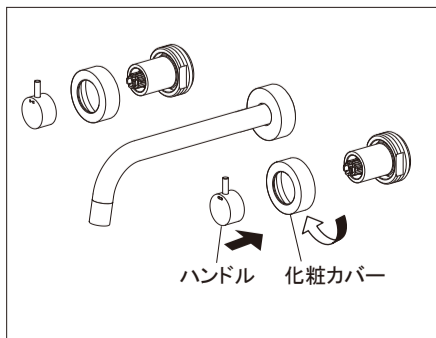
⑨ハンドルを差込んだ状態で、ハンドルを内側にまわし止水位置にします。
*水側・・・左まわり止水
*湯側・・・右まわり止水

⑩止水栓または元栓を開き、混合栓本体が止水状態で、壁内の配管の接続部に水もれがないか確認をします。

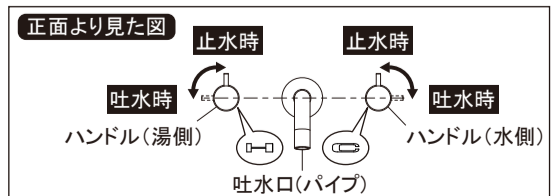
3. ハンドルなどを取付けます。



①吐水口(パイプ)にパイプカバーを通してパイプカバーを取付けます。



②ハンドルを一度抜き取り、化粧カバーを取付けます。
③下図のハンドルの向きを参考にハンドルを差込みます。
*ハンドルの湯側・水側を確認してください。
レーザーマーク「C」・・・向かって右側
レーザーマーク「H」・・・向かって左側

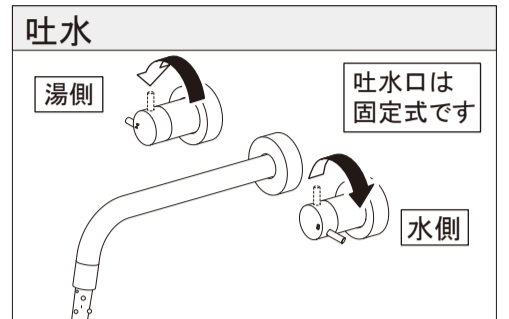
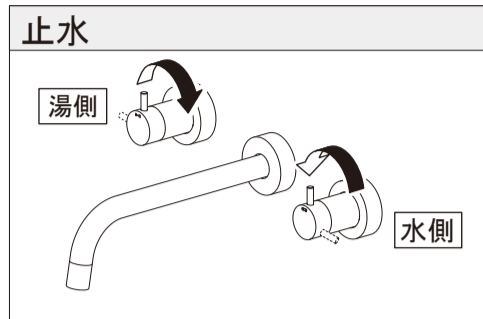


取付後の確認

- ①止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないか確認をします。
漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉め、漏水箇所をやり直してください。
- ②ハンドルを開き、湯水の混合具合および吐水状態を確認してください。
*適量、適温で吐水するために、止水栓で水量、湯量を調整してください。

使用方法

ハンドルの操作方法



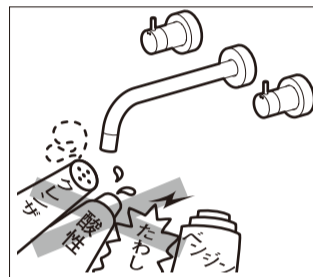
ハンドルを外側にまわすと「吐水」、内側にまわすと「止水」します。

- *水側・・・左まわり止水
- *湯側・・・右まわり止水

必ず実行 湯をご使用の際は、必ずハンドルを水側から開栓してください。その後ゆっくり湯側をまわし、お好みの温度に調節してください。湯側を先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。

お手入れのしかた

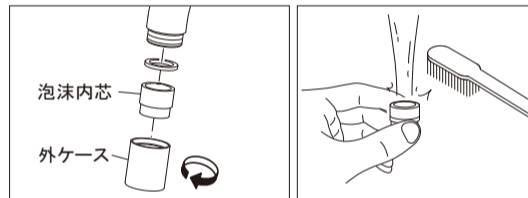
器具のお手入れ いつまでも美しくご使用いただくために。



- 水栓器具の金属部は…
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしこませた布でみがいてください。
- 水栓器具のプラスチック部・塗装面は…
乾いた布を使ってお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いた布で水気を拭取ってください。

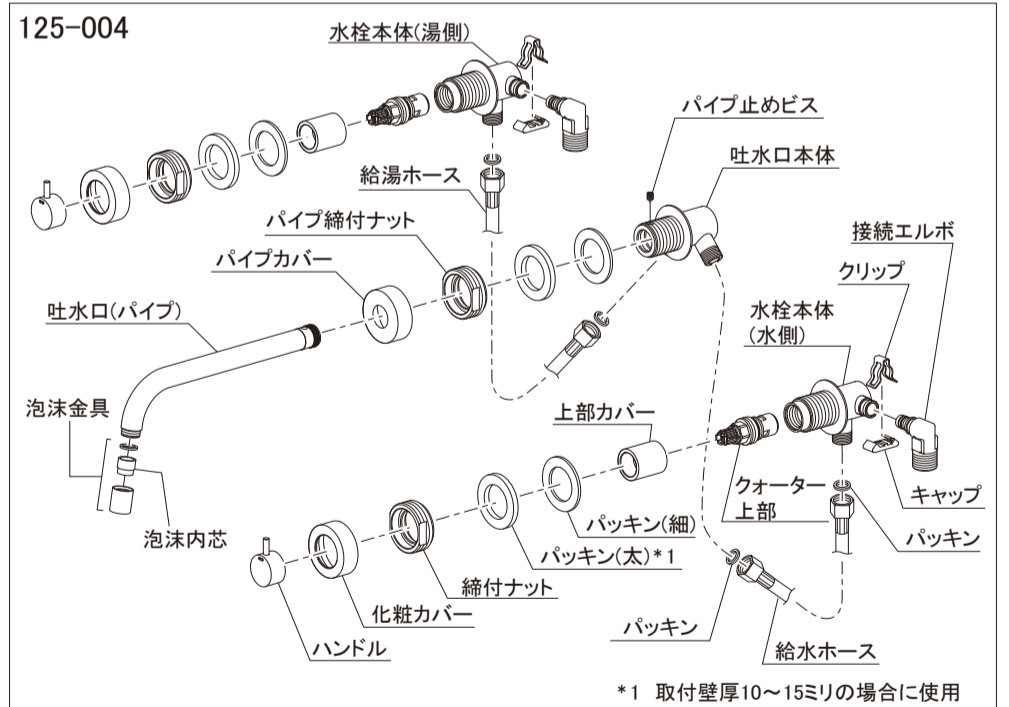
注意 金属たわしやクレンザー・みがき粉など粒子の粗い洗剤・酸性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、金属表面を傷つけたりプラスチック部・塗装面を傷めますので使用しないでください。

泡沫内芯のお掃除



最初お使いになっていた時より著しく水の出が悪くなった場合は、泡沫内芯を外して、ゴミなどの異物をブラシなどで水洗いして取除いてください。

分解図



*1 取付壁厚10~15ミリの場合に使用

*品番によっては、図と製品の形状が一部異なります。
*製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。



本社 〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-4 ☎(06)6538-1124

東京 ☎(03)3552-0981 名古屋 ☎(052)504-1551 大阪 ☎(06)6730-3391 福岡 ☎(092)611-4611
広島 ☎(082)278-2821 札幌 ☎(011)704-1511 仙台 ☎(022)239-8371
1219GF

M-A4106A

無断転載・複写を禁ず